

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

平成24年7月27日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会会議録

平成24年 7月27日(金) 午前10時00分 開議

1. 開 会

2. 議長あいさつ

3. 理事者あいさつ

4. 協議・報告事項

(1) 次期ごみ処理施設の整備について

(2) 上半期火災・救急・救助統計について

(3) 県知事への要望活動について

(4) その他

(5) 平成24年度議会日程について

平成24年度南信州広域連合第2回臨時会 平成24年8月23日(木)

平成24年度南信州広域連合第2回定例会 平成24年11月29日(木)

平成25年度南信州広域連合第1回定例会 平成25年2月21日(木)

5. 閉 会

南信州広域連合議会 全員協議会議

日 時	平成24年7月27日（金） 午前10時00分～午前10時45分
場 所	飯田広域消防本部 3階会議室
出席者	松村議員、横前議員、木下（藤）議員、堤本議員、後藤（文）議員、宮嶋議員、小池議員、勝又議員、仲藤議員、宮外議員、白川議員、新井議員、木下（克）議員、村松（ま）議員、伊壺議員、中島議員、上澤議員、林議員、井坪議員、原（和）議員、10市町村長（欠席・阿智村長・平谷村長・根羽村長・大鹿村長、豊丘村長代理）、渡邊副管理者、山田消防長、桂消防次長兼総務課長、関島警防課長、米山飯田環境センター事務長、北原飯田環境センター専門主査、園原飯田環境センター庶務係長
事務局	高田事務局長、吉川事務局次長、小林次長補佐兼介護保険係長、北原次長補佐兼庶務係長、近藤広域振興係長、林主査

1. 開 会
2. 議長あいさつ
3. 理事者あいさつ
4. 協議・報告事項

No	項 目 名	資料	頁
1	次期ごみ処理施設の整備について …資料による説明（高田事務局長）	1	5
2	上半期火災・救急・救助統計について …資料による説明（関島警防課長）	2	7
3	県知事への要望活動について …資料による説明（吉川事務局次長）	3	9
4	その他（高田事務局長）		15

5. 閉 会

1. 開 会

午前10時00分

(上澤議長) 全員といたしますか、予定の方は全員来ておりますので、ただいまから全員協議会を開催したいと思います。

本日の出席議員は20名であります。一応、本日の会議は成立をしております。

本日の会議に、熊谷英俊議員、下平豊久議員、原嘉俊議員、坂巻博文議員、熊谷時雄議員、上原耕平議員、福田寛議員、中平孝文議員、松下敏彦議員、米山由子議員、木下容子議員、下平勝熙議員、後藤荘一議員から、都合のために欠席する旨の申し出がありましたので、御報告をしておきます。

これより本日の会議を開きます。

30度続きのきのう、飯田市は36.1度という記録的な気温でありました。この天気も2週間ぐらい続くというふうに言われておりますので、本日、欠席の方にも若干体調を崩された方もおるといふふうにお聞きしております。ぜひ広域の皆様方も、また議員の皆様方も、十分に体調を整えられ、御自愛の上、この地域のために御活躍いただけますようお願い申し上げます。

それでは理事者側のあいさつということで、広域連合長からのあいさつをお願いいたします。

(牧野広域連合長) おはようございます。

本日は大変お暑い中、また公私とも御多用の中にもあるにもかかわらず、南信州広域連合議会全員協議会を御開催いただき、当面いたします諸課題につきまして御協議いただきますことに感謝を申し上げる次第であります。

また、日ごろから広域連合のそれぞれのお立場で、広域連合の活動に格別なる御理解、御協力をいただいておりますこと、改めて御礼申し上げる次第でございます。

本日、協議いたします項目の中で、私からは2点につきまして協議させていただければと思います。

まず、次期ごみ処理施設の整備について申し上げます。

次期ごみ処理施設の用地選定につきましては、去る6月25日に広域連合議会全員協議会の勉強会を開催していただき、情報提供をいただいた箇所の現場を確認いただきますとともに、広域連合会議の考え方等につきまして、御説明をさせていただいたところでございますが、その後この地域の断層に関する新たな文献があるとの情報提供がありました。本日はその内容と対応につきまして御報告を申し上げ、協議をいただければと思っております。

次に、長野県知事への要望活動の状況について申し上げます。

去る7月23日に全市町村の代表が参加し、上澤議長にも御同席いただきまして、阿部知事に対しまして要望書を提出いたしましたところであります。

要望の内容は3点ありまして、一つ目は運転免許センターを飯田下伊那地域に設置いただきたいということでもあります。

二つ目といたしましては、リニア中央新幹線並びに三遠南信自動車道の円滑な推進のため、県の調整と支援をよろしくお願ひしたいというものでございます。

三つ目といたしましては、当地域の長年の悲願であります、高等教育機関の設置について、格別の御支援をお願ひしたいというものでございます。

この3点はいずれも、今後、当地域の地域づくりを進めていく上で大変重要な課題と

考えているところでありまして、広域連合としてしっかり取り組んでいかなければならないと考えているところでもあります。

詳細につきましては、それぞれ担当から説明させていただきますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

以上を申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。本日もよろしくお願ひいたします。

4. 協議・報告事項

(1) 次期ごみ処理施設の整備について

(上澤議長) 早速、4番の協議・報告事項に入ります。

次期ごみ処理施設の整備についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

高田事務局長。

(高田事務局長) それでは、資料No.1をごらんいただきたいと思います。資料No.1と、それからその次にA3で折り込んでございますが、色刷りの図面がございますけれども、あわせてごらんいただきたいというふうに思います。

次期ごみ処理施設の用地選定に関しまして、連合長が申しあげましたように、先月6月25日に全員協議会の勉強会を開催いただきまして、御説明を申し上げ、今後の協議をお願いしたところでございます。

その後、今月半ばになりまして、先ほどもありましたように、次期ごみ処理施設の用地の候補地近辺におけます活断層について、新たな文献が出されたというようなことの情報がありまして、その内容と、それから今までの対応等につきまして御報告させていただきます、御確認をいただきたいということでございます。

資料No.1をごらんいただきたいと思います。

その次にあります色刷りの紙であります、これが私どものほうでわかりました、地元の研究者でございます松島信幸先生が調査をされて、美術博物館のほうで発行されました、信州南部活断層地質図という、こういう袋に入ったものでありまして、本物はそここのところに張ってありますけれども、そういった形の地質あるいは活断層の図面があることがわかりました。私どものほうでそれについての中身につきまして確認をし、それから対応してきたところでございます。

初めに、今の評価の中でどうなっておるかということでもありますけれども、次期ごみ処理施設の検討の中の防災面の評価として活断層の調査をいたしました。これにつきましては、文部科学省の地震調査研究推進本部地震調査委員会というところが、伊那谷断層帯長期評価ということで発表されております。これを参考に、私ども評価をいたしてまいりましたが、その中では三州街道の断層ですとか、川路・竜丘断層というような表記がございますけれども、その調査の中では、竜東地区には活断層の表記がないということで、こうしたことから情報提供のあった4地区については、活断層については問題がないという評価結果に、今のところなっておるわけであります。その後、この図面があることがわかりましたので、その対応をしてきたということでもあります、この図面を見ていただきますと、中ほどに白い丸があるかと思ひます。白く抜いた丸が、これが情報提供がありました、図面に白い点が見えませうでしょうか、わかります、中ほどから

右上のほうに青い線が走っておりますが、これが活断層があるのではないかとこのところあります。白い丸の左のほうから亀平、それからその青い線の横にあるのが稲葉、それからその右のほうにあるのが龍江という、そういうその情報提供のあった地点でございます。

これにつきまして、私どもとして、7月24日の日に環境センターの職員が松島先生にお願いして、この稲葉の周辺のところを少し歩いて調査をさせていただいて、直接松島先生から様子を伺ったところでございます。

その中で、松島先生のお言葉を借りますと、これはそんなに新しいものではないのかなという感じはするけれども、やはり調査をしたほうが、少し掘ったりして調査をしたほうが安心ができるのかなというようなお言葉をいただいております、あくまでも松島先生の見解ということでございますので、ほかの専門家の方も入れて調査をされたらどうですかというような御助言をいただいております。

そうしたことから、大至急このところの、青い線のところの活断層、稲葉に関する部分の調査をさせていただいて、ですから、今、用地の評価を検討をお願いする時点でございますけれども、少しこの調査を先行させていただいて、大至急この調査をやらせていただいて、その結果をもって、改めて用地の評価をお願いしたいということでございます。

調査の内容といたしましては、トレンチ調査といいまして、数メータ四方で少し地層を掘って、どの年代の、言葉からすると地質年代というんでしょうか、地質年代がどの時期ころの断層があるのかないのかというようなところの調査をしていくことで、この土地の情報がわかってくるので、そうしたトレンチ調査をやることと、それから土壌分析等をお願いして、この地域の様子を知りたいということでございます。

そんな調査をやらせていただきたいということと、それからその間、少し用地の評価について中断をさせていただいて、調査を先行させたいということでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

この資料1のほうの資料でございますが、これにつきましては、一昨日、午前中にごみ処理施設建設検討委員会、それから午後に議会の環境・福祉・医療検討委員会が開催されまして、そのときにこのペーパーをお配りして、こうしたことで調査をやらせていただきたいということの御報告を申し上げ、御了解をいただいたところでございます。改めて本日この説明をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

(上澤議長) 説明が終わりました。御質疑が何かありますでしょうか。

木下克志君。

(木下議員) 環境・福祉・医療検討委員会委員長として報告させていただきます。

一昨日、7月25日に、環境・福祉・医療検討委員会を開催いたしました。今、説明のありました稲葉地域に活断層があるとの情報に対応し、専門家の調査を実施すること、またその調査を優先し、用地の選定評価は中断することについて報告を受けました。

委員会におきましては調査をすることにつきましては了解いたしました。質疑の中で施設整備のおくれを心配する声があり、調査についてはできるだけ速やかに実施し結論を早く出すべきとの意見があったことを報告させていただきます。

以上で報告を終わります。

(上澤議長) ほかにございませんか。

小池義郎議員。

(小池議員) 今、説明がありました活断層の件ですけれども、この松島先生という方の、私、ちょっと初めて聞いた先生の名前なんですけれども、この先生と我々との関係を、ちょっと先生を詳しく、どこでどういうことをやっておるのか、御説明してもらいたいと思うんですが、お願いします。

(上澤議長) 高田事務局長。

(高田事務局長) 松島先生は、今、地質ですとかそういう分野のこの地域の専門家ということでございますが、美術博物館の顧問というお立場で、この地域の断層ですとか地質ですとか、そういった面での研究をされておる先生でございます。長年この地域のいろいろな地質ですとか、自然環境ですとか、そういった面での研究をされておられまして、美博からいろいろな文献を出されておったりとかということの先生でございます。その先生が調査されたものをまとめられて、ことしの6月、この文献を発表されたと、そういうことでございます。

ですので、私どもが、今、やっております次期施設の整備について、何か松島先生と関係があるとかということではございませんが、美術博物館の顧問というお立場で研究をされているという、そういう方でございます。

(上澤議長) よろしいですか。そのほか、ございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) 御異議なしと認めます。

よって、次期ごみ処理施設の整理については、御説明のとおり了解するということで、集約したいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」との声あり)

(2) 上半期火災・救急・救助統計について

(上澤議長) それでは次に上半期の火災・救急・救助統計についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

関島警防課長。

(関島警防課長) それでは、資料2をごらんいただきたいと存じます。

今年1月から6月までの上半期の火災・救急・救助統計の概要につきまして御説明をいたします。

まず、火災の概要でございますが、出火件数は50件で、前年と比べ35件の減少となっております。死傷者の状況でございますが、死者は2人で、前年と比べ1人の減少、負傷者は5人で、前年と比べ6人の減少となっております。死者の2人は建物火災によるものでして、65歳以上の高齢者となっております。

火災種別では林野火災が前年と比べ14件の減少、その他火災が19件の減少となっております。

昨年、多く発生いたしましたたき火など、屋外での火の取り扱いによる火災は19件で、前年と比べ25件の減少となりました。

1月から4月までたき火火災ゼロ運動を、関係市町村、関係機関の御理解、御協力、御尽力をいただき実施し、注意喚起を実施いただいたたまものと思っております。

主な火災原因はたき火10件、放火5件となっております。

続きまして、救急の概要でございます。

出動件数は3,247件で、前年と比べ100件の増加、搬送人員は3,152人で、前年と比べ109人の増加となっております。

1日平均の出動件数は17.8件で、約80分に1件の割合となっており、搬送人員は管轄人口の54人に1人が搬送されていることとなります。

搬送人員の年齢区分では、65歳以上の方が全体の66.9%を占めまして、前年と比べ158人の増加となっております。

通報時心肺停止の症例は135件で、病院到着前に心肺が再開した事例は13件あり、うち9件が現場に居合わせた方の応急手当てにより心肺が再開しております。救命講習会等、さらなる救命率向上のため、普及啓発を実施してまいりたいと思っております。

昨年10月から県内2機体制となりましたドクターヘリの活動は31件ありまして、前年と比べ15件の増加となっております。今後も地域状況を踏まえ、機動性のある防災ヘリ、ドクターヘリとの連携を深め、効果的かつ積極的に活用してまいりたいと思っております。

続きまして、救助の概要でございます。

出動件数は42件で、前年と比べ14件の減少となっております。救助人員は28人で、前年と比べ12人の減少となっております。事故種別救助出動件数は交通事故が23件と全体の54.7%となっております。防災ヘリと連携する活動は1件ということとなっております。

以上、上半期の火災・救急・救助統計について概要を説明させていただきました。各統計の詳細につきましては、それぞれ資料を添付してございますので、御高覧いただければと存じます。

また、統計概要の裏面をごらんいただきたいと思っております。

熱中症疑いによる救急搬送の状況を参考に記載させていただいております。7月26日17時30分までの速報値を取りまとめたものでございます。

熱中症疑いによる救急搬送人員は、昨年に比べ32人の減少となっております。気象庁の発表によりますと、6月は平均気温が平年より低く、7月中旬からは平年より高くなっている状況で、来月の8月上旬にかけ太平洋高気圧に覆われ暑い日が続くと予想されているところでございます。引き続き機会をとらえ、注意喚起を行ってまいりたいと思っております。

以上で私の説明を終わらせていただきます。よろしく申し上げます。

(上澤議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

小池議員。

(小池議員) 先般、新聞に実は救急車を依頼したが、何か救急車が出動しなくて亡くなったという新聞記事が出ておったんですが、当初、我々、これ、聞いておったんですけども、救急車をタクシーがわりに使っておるような、昔、そういう話があったんです。その間で、今、例えばひとり暮らしのような場合、その亡くなった方は高校生だったらいいんですけど、新聞に出ておりました。やはりこの救急依頼で来た場合、こういう場合には判定が非常に難しいと思うんですけども、例えば依頼したときにどんな症状だとか、そういう確認をしてから救急車を出すのか、それともだれでもいいで、先にでもう出てくるか、

ちょっとそこら辺を詳細に御説明願いたい、そんなふうをお願いいたします。

(上澤議長) 関島警防課長。

(関島警防課長) 119番受信時におきまして、その状況判断で心肺停止というような状況でありますと、1名増員で4名体制等の状況により出動させていただいております。現場に到着しないと、あくまで容体というのほうのほうで判断できない状況でして、その辺を踏まえながら救急車を搬送する、もしくは御自分で医療機関のほうへ伺えますかという判断もありますけれども、原則的には救急要請119番があったときには、その容体を確認するまで救急隊を出動させているというのが現状でございます。

(上澤議長) 小池議員。

(小池議員) 今、その説明でわかりましたけれども、出動したときに、何だと、こんなような状況で119番へ連絡した、そんなような事例はありますかどうか、ちょっとお聞きしたいんですが。

それからまた、そういう方については、注意するだとか、私はちょっとわかりませんが、この間、たまたま新聞に出ておったものですから、ちょっと私、そこら辺が非常に判定が難しいかな、そんなふう思うんですけども、そこら辺はどんなようなふうにおられるかどうかを説明してもらえたらと思います。

(上澤議長) 関島警防課長。

(関島警防課長) 傷病程度別の搬送状況ですけれども、入院加療を必要としない軽症の割合というのが、救急出動搬送された傷病程度の別で言いますと、約44.4%の方が入院加療を必要としない救急搬送という状況になっております。これは去年は43.6%ということで、若干、毎年ふえているという状況でありますので、消防機関といたしましても、真に救急車を必要としている方へ対応できるよう、機会をとらえ救急車の適正利用についてお願いしているところが現状でございます。

(上澤議長) よろしいですか。そのほか御質疑ございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) なければ、説明のございました上半期の火災・救急・救助統計についてはお聞きをしておくことといたします。

(3) 県知事への要請活動について

(上澤議長) 次に、長野県知事への要望活動についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

吉川事務局次長。

(吉川事務局次長) それでは、7月23日に行いました県知事への要望活動について御報告申し上げます。

資料No.3-3をごらんください。お手元の資料の裏から2枚目になろうかと思います。資料No.3-3でございます。

去る7月23日に、連合長ほかすべての構成団体の市町村長さん、上澤議長さんで県庁を訪れまして、地元県議さんにも御同席いただき、要望活動を行ってまいりました。

資料No.3-3はそのときの記録でございます。

要望内容は次のページの要望書のとおりでございまして、南信運転免許センター設置に関する事、リニア新幹線並びに三遠南信自動車道の推進に関する事、それから高

等教育機関の設置に関することの三つの要望項目をお願いしてまいりました。

要望書は広域連合長と広域連合議会議員との連名になっております。議会の皆様方への御説明が事後報告となってしまっております。まことに申しわけございません。

1番目の項目の南信運転免許センターの設置に関しましては、7月13日に県警本部長に対しましても要望活動を行っております、資料No.3-2、その前のページでございますが、3-2はそのときの要望書の内容でございますので、御確認をお願いいたします。

この件につきましては、本年2月23日に広域議会議員より県議会議員、それから県知事あてに意見書の提出を行っていただいております、今回はそのときの要望内容に加えまして、南信運転免許センターを飯田下伊那地域へ設置いただくよう要望を行ったものでございます。

現在、塩尻に中南信運転免許センターがあることを考えますと、南信運転免許センターは飯田下伊那地域内に設置することが地理的バランスがよいというふうに考えておまして、県警の担当部局でも同様に考えていただいているものとの感触を持っております。

次のステップでございますけれども、具体的な運転免許センターの設置場所を提案していくということが、事業を進める上で重要であるというふうに考えております。

今後、具体的な候補地につきまして情報を収集しつつ検討を進めてまいりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

続きまして、2項目めのリニア新幹線並びに三遠南信自動車道の推進に関することでございますけれども、この二つの巨大プロジェクトを円滑に推進して地域振興に結びつけるということが、飯田下伊那地域にとりまして最大の課題であることは論をまたないものだというふうに考えております。

今後、リニア中間駅へのアクセス網の整備や、発生土の処理など、さまざまな課題への取り組みが必要であることから、この二つのプロジェクトに対する県の積極的な支援と、国など関係機関との調整を、今回、改めて要望させていただいたものでございます。

3番目の項目は高等教育機関の設置に関することでございます。

5月21日に開催された広域連合議会議員と、地元選出県議会議員との懇談会において、飯田工業高校の後利用として、県立工科短大を要望すべきであるという旨の御提案が県議会議員さんよりございました。その後、広域連合といたしまして、6月1日に工業関係3団体の代表の方と懇談を行い、6月14日には広域連合の市町村長と県議さんとの懇談を行い、また6月25日にも臨時の広域連合会議を開催し、さらに7月10日には広域議会の総務文教消防検討委員会の委員の皆様、広域連合の総務文教消防部会の皆様、連合長及び地元選出県議の皆様にお集まりいただきまして、協議を行っていただきました。

7月10日の懇談会の内容につきましては、お手元の資料No.3-1をごらんいただきたいと存じます。

このように数回にわたりまして意見交換と協議を重ねてまいりました結果、飯田下伊那地域への高等教育機関の設置を望むという点については、関係者の意見が一致することが確認ができました。今回、この一連の取り組みを集約するという形で、県知事要望に急遽1項目加えさせていただき、当地域への高等教育機関の設置につきまして、

県の御支援をお願いしたいという要望をさせていただいたところでございます。

この件につきましては、関係者による意見交換会やプロジェクトの設置など、具体的な取り組みについて、今後、検討してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上、説明とさせていただきます。

(上澤議長) 説明が終わりました。御質疑ございませんか。

井坪隆議員。

(井坪委員) 最後に御説明のありました高等教育機関の件でございますが、私も地元選出県議との懇談会に出席させていただいて、初めて内容をお聞きしながら意見交換をした立場から、その感想と今後の連合長自身の対応の仕方についてお尋ねしたいと思うんですが、まず二つ感じたんです。

一つは、これだけの地域の大きな要望が、議会との懇談という回数が非常になくて、初めて公にお聞きしたというような状況の中で懇談を迎えたという、その時間的なスケジュールが、私どもには非常に不安があったということが一つ、もう一つは県会議員と広域連合とのあり方の問題が、大いに不安が残りました。

この二つ目の県会議員とのあり方につきましては、この議事録を見ていただいたらわかるとおり、とにかく広域連合の示した案というのは、私ども議会としても初めて見ても十分納得のいくものなんです。しかも客観的だと思っています。しかしながら、県会議員からはそれを全くはなから否定するような発言が多くて、地域の要望を県につなげるというような役割であるはずであれば、全く真逆の姿勢であったというふうに思わざるを得ないというふうに思います。このことは先般の広域連合議会と県会議員の懇談会においてもいささか感じたところであります。

こういった関係でいくことが、果たして今後、広域連合と県との間において将来的に望ましい姿勢なのかどうか、非常に悩ましい問題であり、地域としての大きな不安が私は残った懇談会でありました。

したがって、きょうお聞きしたところでは、大変この工科短大、高等教育機関の問題については、広域連合並びに県会議員との懇談も数多くされておられてきておるんですが、その結果において、さきの懇談会の内容が全く両方の意見がすり合わない、このような状況がこれからも続いていくということは、私は決して地域にとってはよくはない、どちらに問題があるかという問題ではなくて、議事録のやりとりを見れば明白であります。それはともかくとして、連合長のこれからの県会議員とのあり方で、特に県とのすり合わせが必要な施策のことについて考えをお聞きして、新たなリーダーシップを発揮していただきたいと思っております。

(上澤議長) 牧野広域連合長。

(牧野広域連合長) この高等教育機関のこれまでの取り組みにつきまして、今、お話を井坪議員からもいただいたところでありますが、既に御存じのとおり、この地域にとりまして高等教育機関の設置ということにつきましては、長年の悲願として取り組みをしてきているところでございます。

一方、県のほうにおきましては、御案内のとおり二つの取り組みが、今、進んできているわけですが、一つはこの上田にあります工科短大につきまして、この分校的な位置づけになるものを南信へという、そうした取り組み、それからもう一つが長野に

あります県立短大を4年制化する中で、市議会の中で指摘されてましたようなサテライトのようなものが可能であるかどうかというようなことについての取り組みの検討という中で、私どもの地域として、やはりこうした長年の高等教育機関の設置ということを考えて上で、どういったことをこれから県のほうにまた御支援をお願いしていくか、こういうことの中で、去る7月23日におきましても、1月のときにもお願いしたわけがありますが、重ねてそうしたお願いをしてきているところでございます。

今、お話がありましたように、広域連合議会の議員の皆さん方ともしっかりとまた連携を密にしながらということも当然でありますし、また地域の中のやはり産業界等の皆さん方の意見もしっかりと踏まえた上で、こうした取り組みをさらに進めていきたいと考えているところであります。

地域の中のそうした声を意見集約をする中で、県議会の先生方におかれましても、こうした県の取り組みにつきまして、私どもの地域のやはり思いというものを、しっかりと県の御当局にまたお伝えいただきたい、こういうふうに私どもとしては、しっかりとお願いさせていただければというように思っているところであります。

今回、3点のお願いを阿部知事あてにさせていただきまして、そのときに知事からもそれぞれにつきまして、ここに記録の用紙に書かれておりますように、前向きなお答えをいただいているところでございますので、やはり私どもとしては、そうしたこれからもこの地域の意見のしっかりと集約を図りながら、県当局に対しての働きかけを強めてまいりたいと、そういうふうに考えているところでございます。

(上澤議長) よろしいですか。

井坪隆議員。

(井坪議員) 高等教育機関の設置については、いかなる教育機関をつくるかというところに論点を絞って、私はかなり明確な意思が飯田下伊那としては出ていると思うんです。ところがなかなか県議会の議員の方々への理解が進んでいないという実感を受けたんです。だから地域の意見をお互いにまとめて共有していくということについては、私はほぼできているかなというふうに思うんです。どこまでやればいいのか全部はわかりませんが、しかし問題はそこで我々の考え方がいかに県議会議員に伝わっていくかと、そのことが相乗効果として飯田下伊那の意見になっていくという、そういうスタイルだと思うんですが、その中間のプロセスがどうも弱いと思うんです。そこに連合長の考え方とか力を発揮していただきたいと、こういうことをきょうは私は申し上げているんです。

(上澤議長) 牧野連合長。

(牧野広域連合長) 今、御指摘がありましたことにつきましても、当然踏まえさせていただきまして、先ほど申し上げましたように、この地域全体の意見として、特に産業系の皆さん方、あるいは教育機関等も含めてになるかもしれませんが、やはりそうした皆さん方の懇談等も、今、これから計画していきたいというふうに考えているところであります。そうしたことも踏まえながら、今、お話がありました県議の先生方に対しましても、私どもの思いというものをしっかりと伝えていくということが必要じゃないかというふうに思っているところであります。

(上澤議長) よろしいですか。そのほかございませんか。

白川靖浩議員。

(白川議員) 私もちよっと高等教育機関というのが、どっちのことを言っておるのかわからんよう

な感じなんですけれども、工科短大なんですか技術専門校ですか、私どもの聞いたのは、高等教育機関という話は聞いておりましたけど、具体的に飯田市の方とどうも私たちとは温度差があるような気がするので、その辺を、これ、一体どういうことを求めているのか、ちょっとわからんので教えていただきたいんですが。

(上澤議長) 高田事務局長。

(高田事務局長) 資料No.3-3の一番最後のところをごらんいただきたいというように思います。

3番の高等教育機関の設置について格別の御支援をお願いいたしますというところの中の、その中の説明の中で、一番下のところにありますが、当地域の産業特性に着目した工学系の高等教育機関の設置につきまして、格別の御支援を賜りますようお願いいたしますというような表現になっています。この県知事要望の際に、阿智の村長が総務文教消防部会長ということで代表されまして補足をされておりましたが、それが資料3-3の1ページのところのこの要旨を見ていただくと、補足説明というのが上から10行目ぐらいのところ、補足説明、岡庭総務文教消防部会長というところがあります。そこを見ていただくと、今、県立大学の4年制化、工科短大等が県で、今、検討されていると。それから飯田工業高校の後利用としても、私たちとしても検討していきたいので、県として努力をお願いしたいというような表現をされています。

ここは県議の先生方も同席をして、公の場でしたので、こういう表現になっております。

今まで広域連合の会議の中での今までの経過を申し上げますと、工科短大はいわゆる厚生労働省所管の技術養成機関という位置づけが主なものでございます。それから工科短大の南信地域への配置ということが、技術専門校、今、松尾に技術専門校がありますけれども、それが今、岡谷、上伊那、それから飯田技専とありますけれども、それらの統廃合も含めての検討もしておられるやに聞いておりますので、非常にその面も含めて、工科短大の誘致ということがどういう影響があるのかということ私たちでははかり知れない部分もございまして、そうした面も含めると、工科短大というのは、どちらかというと高等教育機関というよりは、技術者養成機関といえますか、あくまでも厚生労働省所管の機関でありますので、この工学系の高等教育機関というのは、やはり4年制大学を目指しながら、できるだけ工業系のこの地元の産業が発展するような形で高等教育機関を目指していきたいというのが、私ども広域連合会議としての考え方ということで、御理解をいただければというふうに思います。

(上澤議長) 白川議員。

(白川議員) ということは、広域連合としては、工科短大は余り真剣には考えておらんのだということ意味なのかなと。前から教育機関が欲しいということは、話しはわかっておりましたけれども、この前の県議さんとの懇談を聞いておる中でも、全然飯伊は気がねえじゃねえかというような発言がございましたし、実際、上伊那もかなり進んでるような状態のようでございますので、本当に工科短大を望むんだか、そうじゃなくて、今、説明のあったほかの高等教育機関を望むんだか、その辺によって取り組みが違うと思うんですけれども、これ、連合会議のほうの意思はどうなんでしょう。お願いします。

(上澤議長) 今、説明されたとおりでと思うんですけども。

(白川議員) 先ほどの説明というか、私、聞いておると、両方のふうに聞こえたもんで、工科短大を望んでおるのか、ほかの高等教育機関を望んでおるのかという、その辺のところ、

今、両方というなら両方かもしれんけど、もうちょっとお願いしたいんです。

(上澤議長) 高田事務局長。

(高田事務局長) 広域連合会議といますか、この地域は長年大学誘致といますか、高等教育機関関係では4年制大学を何とかという、この地元へという長い運動がずっと続いてきたというふうに思っています。

先ほど申しましたように、工科短大は平成7年に上田にできておりますけれども、そのときも上田と上伊那のやりとりというようなことでございまして、そのときからこの地域は4年制大学を何とかこの地へという運動が今までも続いてきたというふうに思っておりますので、広域連合会議とすれば、あくまでも工学系の4年制の大学を目指していきたいというのが、今の考え方かなというふうに思っております。

(上澤議長) よろしいですか。

(白川議員) 感想だけ。

何年か前に森田県議が確かにどうかとって、お聞きしました。そのときの反応は、どうも飯田市は鈍いなという私の印象でございました。それが、今、事務局長さんの言った言葉にあらわれておるのかなと思って、私は現在そう理解しております。これはぜひ統一してもらって、きちんとやっていただきたい、以上としておきます。

(上澤議長) そのほかございませんか。

小池義郎議員。

(小池議員) この工科短大について、実は私も新人で初めてこの前の席、2回あったんです。その中に県議が来る前にどういうふうかということで、私は個人的な考えで、私はこの県議が来る前だと、これはいい話じゃないかなと、そういうふうに思っておったんです。ところが、実際に県議が来まして、それでいろいろ懇談会やミーティングをやっている最中に、どうも岡庭村長たちと大分話がどうも合っておらんなど、ちょっとその席で驚いたような状況だったわけなんです。その結論としまして、私はこの飯田地区にやはり何か大学というものが需要ではないかなと、そういうふうに思っておるわけです。

私もこの平谷でずっとおるんですけども、やはりできるだけ地元で大学というものが需要だという中で、私は、中には四大四大と言いますけれども、当然、これ、四大も必要です。私は四大は否定しません。ただ、目標としまして、それはそれで進めておいて、とりあえずこういう工科短大でも飯田へ誘致してくれるということであれば、これは前向きにそれはそういうふうに進めておいて、最終的に長年かかって一步一步前進しながら、いい方向へ持っていったほうがいいんじゃないかな、そんなふうに思うわけです。

それで私は決して賛成とか反対ではありませんけれども、何か大きい台というのは、この我が下伊那地区でひとつ早急に欲しいなど。それには高望みしないように、手の届くところからひとつ進めていったほうがいいんじゃないかな、そんなふうに個人的な私の考えなんですけれども、これ、ちょっと全体とは違いますけれども、いけるところから順番に進めていったほうがいいんじゃないかな、そんなふうに思います。

以上です。

(上澤議長) 要望といますか、意見でございますが、答弁いいですか。

(小池議員) 結構です。

(上澤議長) そのほか、ございませんか。

ほかにはないようでございますので、長野県知事への要望活動については、聞きおく
ことといたします。

(4) その他

(上澤議長) そのほか、議員の皆様方、何か御発言はございませんか。

それでは理事者側から何かありましたら。

高田事務局長。

(高田事務局長) 先ほど、ごみ処理施設にかかわる用地にかかわりまして、地質の調査をさせていただくということを申し上げまして御了解をいただきました。大至急進めてまいりたいというふうに思っておりますが、これはトレンチ調査、それからどのような専門の方をお願いするか、これから大至急やりますけれども、予算的なことが、今、まだ何とも、どのぐらいかかるかも含めてわかりませんので、少し調査費とか事業内容とかわかってきたところで、改めて8月に臨時議会がございますので、その席でお願いしたいと思っております。ただそれまでに、どうしても早く手をつけてまいりたいと思っておりますので、予算措置が必要な場合には、できましたら専決処分、あるいは流用処理なりをさせていただいて、改めて8月23日の臨時議会で報告させていただきたいと思いますが、そのようなことで取り組みをさせていただきたいと思っておりますので、御了解いただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

(上澤議長) 地質調査につきまして、今、提案がございました。23日に臨時議会がありますので、専決処分で行使する場合もあるということでございますので、このことについては、そういった形で御理解をいただくということによろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

(上澤議長) ではそういうことで、次回、23日の臨時議会の間に、いろいろそういった手続をとる場合があるということをお承知おきいただきたいと思えます。

そのほかございませんか。

なければ、以上で全員協議会を閉会といたします。御苦労さまでございました。

閉 会 午前10時45分